

日本医科大学(後期) 生物

2022年3月4日実施

【生物(解答)】

[I]

- 問1 アー光合成 イーミトコンドリア ウー遺伝的浮動
イの細胞小器官に存在するものー (あ), (う), (え)
問2 I群ー (う), (え) II群ー (a)
問3 (1) (あ)
(2) (え)
問4 I群ー (う) → (い) → (お) II群ー (d), (e), (f)
問5 I群ー (あ), (お), (き) II群ー (c)
問6 (1) AA-36, Aa-48, aa-16
(2) A-0.65, a-0.35
問7 (1) I群ー (い), (く) II群ー (e) → (f) → (c)
(2) I群ー (お), (き) II群ー (d) → (a) → (g)

[II]

- 問1 アー (う) イー (え) ウー (か) エー (く) オー (こ)
カー (け) キー (さ) クー (す) ケー (た)
問2 遺伝子重複
問3 コー (い) サー (あ) シー (う) スー (え)
問4 (え)
問5 (あ), (え)

[III]

- 問1 タンパク質Bー (う), タンパク質ー (い)
問2 (え) → (い) → (あ) → (う) → (お)
問3 (う)
問4 (あ)

理由: 野生型マウスの遺伝子Aの発現量はDNA-9と同程度だと考えられるが,
変異型マウスの遺伝子Aの発現量はDNA-2と同程度だと考えられるため,
変異型マウスのほうが遺伝子AのmRNAの発現量は多くなるから。

【生物（講評）】

例年通り、大問 3 題で、【III】が遺伝子発現や分化に関する本格的な実験考察問題であり、今回も実際に日医らしい出題であった。【I】は、5 年前までは知識問題であったが、4 年前から知識問題の他に考察問題を含む出題となり、本年度の前期も同様の形式であったが、今回の後期では知識問題に戻った。全体として、実験考察問題の割合が多く、差がつきやすい。

【I】生物の進化に関する問題。

問 2 シアノバクテリアは細菌ドメインに属するが、光合成色素としては、バクテリオクロロフィルではなく、クロロフィル a をもっている。光化学系 I と光化学系 II の両方をもち、 H_2O を分解して酸素を放出する。

問 3 (2) $2^6 \times 2^6 = 2^{12}$

問 5 鎌状赤血球貧血症は、1 塩基の置換により、アミノ酸がグルタミン酸からバリンに変化した。

問 6 (1) $(0.6A + 0.4a)^2 = 0.36AA + 0.48Aa + 0.16aa$

(2) aa の生存率が 50% より、 $0.16aa \times 1/2 = 0.08aa$

A の遺伝子頻度 = $(0.72 + 0.48) / (0.72 + 0.48 \times 2 + 0.16) = 0.652\cdots$

問 7 e (オルドビス紀) → f (シルル紀) → c (石炭紀)

d (三疊紀) → a (ジュラ紀) → g (白亜紀)

【II】ヒトの視覚に関する問題。

問 2 の遺伝子重複を答える問題と問 3 のグラフを選ぶ問題はやや細かい知識ではあるが、日本医科大学受験者であれば確実に得点したい。

【III】動物の汗腺に関する問題。

日医らしい、前提条件を読み、状況を正確に把握する能力が求められる。

問 1 表 2 から読み取ればよい。

問 2 ヒトの場合、領域 2-2 と領域 2-3 の変異により、タンパク質 C と B が結合することで、遺伝子 A が発現するようになったと読み取る。したがって、さまざまな DNA が領域 2-2 と 2-3 がどのように変異しているかを読み取り、タンパク質 B と C がはたらく間に遺伝子 A の発現が促進されているかを読めばよい。

問 3 DNA-8 と一致することに気が付ければよい。

問 4 領域 2 はすべてヒトのものに入れ替わっているので、遺伝子 A の mRNA はヒトと同じ発現量になるはずである。

例年通り、遺伝子発現や分化に関連し、DNA やタンパク質の相互関係を実験結果から推測する出題であった。このような問題は丁寧に読んで理解していくべき正解に到達できる。

一次試験突破の目安は、75%程度だと思われる。

なお、YMS の『入試予想 2022 日本医科大学』では、視覚や進化に関して掲載しており、これを活用していた生徒は有利であった。